

空から見守るスイ

僕は誰に何を
思われてもどうでもよかったんだ。
僕のころだけは僕の物だったから。

誰それがどうか、
なんだとか、

本当かどうか
よく分からない事を
話している人の声よりも、

自分の心の方が
よっぽど大事だと思っていた。

だって、
自分に一つしかない、
自分だけしか持っていない、
周りからは
絶対に見えない大事なもののだから。

だから僕は、
こころの思うままに生活してたんだ。

僕の心は止まったままだけど、
カオのころは
今も動いてみんなに伝わっているよ。

だから、自分を責めないで。
僕は好きで死んだんだ。

この土地が大好きだったから。

水が好きで、人が大好きだった。

だから、
僕が死んで水が降ってくれたことが、

本当に嬉しかった。

またこの土地が生きてくれる。

カオが生きてくれる。

これからのカオの子どもも

また生きれるんだよ。

すごいことだよね。

僕は今もこころだけは

残ってて、カオを見守っているよ。

カオはもう大丈夫。カ

オのころはぼくより、ずっとずっと
強いんだから。

自信を持って。

自分を大事にしてね。

僕が全力で

カオの背中を押すからね。

カオが迷っているとき、

悲しいとき、

したいことがあっても

なかなか出来ないとき。

カオはもう一人の自分がいて、
何をするにも
歯止めをかけることが
あるだろうから、
僕が背中を押してあげるんだ。

誰かの声や、
顔色なんてどうでもいいじゃない。
カオのところが一番大事なんだ。

僕はカオのころを
全力で押し上げる。

そう強く願い、
今日も雨を降らすんだ。

カオ笑っててね。